

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>零細漁民の収入の増加を基に、持続可能な生活の向上をはかる。</p>
(2) 事業内容	<p>中間報告までの時点で実施された現地活動は以下の通り。</p> <p><u>2012年3月(21日-26日)</u></p> <p>①「キックオフミーティング(リーダーズミーティングを兼ねる)本部事業担当者、現地在住専門家並びに10人のリーダーによる事業開始のための打合せを行った。</p> <p><u>2012年4月</u></p> <p>①「業小屋の整備 今後の養殖作業や陸上での準備作業のために、老朽化していた既存の作業小屋をあり合わせの資材や廃品を利用して、10人のリーダーが自助努力で整備した。粗末な作業小屋ではあるが作業環境の改善となった。</p> <p>②種苗の生産開始 プロジェクト開始前に予め育成しておいた既存の藻体を利用し、今後必要とされる種苗の育成を開始した。養殖イカダは資機材の調達と作製に時間を要するので限られたプロジェクトの時間を少しでも無駄にしないため、オフボトムメソッド(海底に直接杭を打ちロープをはって海藻を育てる方法)により種苗の養殖を開始した。この方法は簡便であることが利点であるが、食害生物の被害に合いやすいことが欠点である。養殖筏の作製が進むのにあわせて順次、オフボトムメソッドから筏に切り替えることとした。</p> <p>③事業実施者の選抜 事業実施を望み、かつ時間と能力があると思われる58人を選抜した。</p> <p><u>2012年5月</u></p> <p>①「地指導 本部事業担当者・本部専門家がセラングン島のサイトを視察し(5月11日-15日)、種苗の育成状況、周辺環境の状況、及び漁民の自助努力で整備した作業小屋の状況を確認した。種苗は順調に成長しており、湿重量で約600kgほど確保されていた。</p> <p>②本部専門家によるキリンサイ養殖事例の紹介と筏による養殖事業に関するセミナー開催(5月13晩-15日)。参加者、延べ43人。フィリピン、インドネシア、マレーシア及びブラジルで行われているキリンサイ養殖の事例を動画で紹介した。それぞれの環境条件等に応じて様々な養殖方法が用いられていることが理解されるとともに、本案件の今後の進め方についても熱い議論が交わされた。また、10人の漁民リーダーと現地スタッフおよび本部の専門家の間において養殖イカダの作製についてコミュニケーションギャップがあることがわかったが、このセミナーを通じて意思の疎通がはから</p>

	<p>れ養殖筏に関する正しい理解が得られた。種苗の順調な成長と併せて今後の本案件の進捗について明るい見通しが開けてきた。</p> <p>③養殖筏資材の購入 養殖筏作製に必要となる資材（竹材、木杭、ロープ、etc）を調達した。</p> <p>④デモンストレーション用の筏の作製 養殖実施に必要となる養殖筏の作製について、10人の漁民リーダーおよび現地スタッフと協議を行った。魚による食害が懸念されており、害魚防止のネットを付けた筏と付けない筏をそれぞれ5基ずつ6月までに作製した。この2つのタイプの筏の比較検討実験を開始した。この結果をもとに養殖事業の当事者である零細漁民が、主体性と責任をもって、最終的な筏の形態・個数を決め、本格的な養殖を進める。</p> <p>2012年6月初旬 ①6月5日現在、10基の筏で育成されている種苗は順調に生育しており、湿重量で900kgほどになっている。</p>
(3) 達成された効果	<p>本プロジェクト計画時に想定された「期待される成果」についての中間報告時点で見込まれる達成状況は以下の通り。</p> <p>本プロジェクトの成果の大きな柱は「零細漁業者の収入の増加」であり、現時点では養殖用の種苗の育成および本格的な養殖筏の選定のための実証を行っている。海藻の収穫・販売はまだ行っていないが、海藻養殖に関心を示す女性もおり、実際に作業に参加していることから、今後女性の就労機会の1つとなりえる。</p>
(4) 今後の見通し	<p>プロジェクト開始時、直ぐに100人程度の参加者を募ることが早過ぎるといふ雰囲気があった。特に、リーダー10人が、食害を心配し、ある程度、養殖筏による生産の可能性を確信してから、規模を100人に拡大することが良いと判断した。従って、種苗も順調に育っているので、7月中旬ころを目処に、参加者の確定&筏の作製(60-100基程度)を行う。現段階の進捗状況では、デモンストレーション用の種苗(約900kg)は十分確保されており、さらに本格的な養殖(養殖筏100基分)を開始するために必要な種苗を育成中である。現在まで海藻は順調に成長していることからこのまま自然条件に変化がなければ、漁民の取り組み姿勢も前向きであることから、事業は順調に進んで行くものと推察され、零細漁民の現金収入源として一定の成果が期待できる。</p>